

[学会記録]

北海道医療大学歯学会第26回学術大会 一般講演抄録

保育園児，保育士，幼稚園教諭を対象とした幼児の口腔保健に関する啓蒙活動について

○福田敦史，広瀬弥奈，松本大輔，八幡祥子，倉重多栄，竹嶋麻衣子，倉重圭史，千葉逸朗*，五十嵐清治
北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野
*北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系保健衛生学分野

【目的】本講座では平成17年度から第4学年後期の小児歯科学実習において，保育園児への歯の健康に関する啓蒙活動と歯学部学生の小児との接触と園児の齲蝕予防活動の知識と技能を習得する目的で，保育園児を対象の口腔衛生指導とブラッシング指導を実施している。さらに今年度は，保育士と幼稚園教諭を対象とした当別町・北海道医療大学歯の健康プラザ共催事業「子育てに役立つお口の健康講座」に参加し，で講演する機会を得たので報告する。

【方法】

1. 保育所実習
本学歯学部4年生が3～5歳児を対象に紙芝居等を媒体とした齲蝕予防指導とブラッシング指導を実施した。
2. 当別町・北海道医療大学歯の健康プラザ共催事業「子育てに役立つお口の健康講座」

保育士と幼稚園教諭を対象とした（参加数40名）当別町・北海道医療大学歯の健康プラザ共催事業「子育てに役立つお口の健康講座」を開催した。

【結果および考察】日頃小児と接する機会が極めて少ない学生の中には，最初はコミュニケーションの取り方に苦慮する様子も見られたが，接して行くうちに，ブラッシング指導をスムーズに行えるようになったと思われた。したがって，本実習は学生にとって小児とのコミュニケーション学習として大変有意義であった。

また，講演において保育士，幼稚園教諭の参加率は100%と極めて高かったことから，小児の健全育成に関する口腔の健康に高い関心を持っていることが推察された。しかし，フッ化物局所応用の適応時期などの知識や情報が不足していることも明らかとなり，今回のような啓蒙活動が今後も必要であることが示唆された。

臨床実習の学習過程におけるグループリフレクションの教育的効果
ークリティカルシンキング志向性の促進ー

○長田真美*，五十嵐清治***，沢辺千恵子*，大山静江*，岡橋智恵*，植木沢美*
*北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校
**北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野

【目的】臨床実習は臨床を理解し諸状況に対応できる歯科衛生士としての資質を形成するための重要な学習過程である。臨床の多義的，個別性，動的な特性を理解するには，歯科領域の専門知識・技能に加えて，客観性・複眼性・柔軟な視点であるクリティカルシンキング（批判的思考 Critical Thinking 以下CT）が必要である。CTは知識・技術及び態度（志向性）で構成されており，本校ではCT志向性の向上を図るための一方略として，臨床体験を実習グループで振り返る「グループリフレクション（Group reflection）」を実践している。今回は，CT志向性の観点からグループリフレクションの効果を検討したので報告する。

【方法】対象は本校の第2年次生で，事前にリフレクションの趣旨

を説明し，臨床実習期間に全員に同回数実施した。リフレクションでは，実習中に直面した事例や問題・課題・疑問の解決を主眼にした討議を学生主導で行った。

CT志向性の測定はCT志向性尺度を用いた質問紙調査法で行い，リフレクション実施の前後を比較した。

【結果および考察】調査・集計の結果，CT志向性の10のカテゴリの中で「柔軟性」，「他者の立場の尊重」，「客観性」，「追求心」において有意な差がみられた。

自身の視点を複数の他者と比較・統合することによって，臨床体験を多面的に捉え直すリフレクション過程がCT志向性の向上に効果のあることが示唆された。